



2012.4.11

4月 ちとせだより

神戸 YMCA ちとせ幼稚園

新年度を迎えて、新入園児は期待と不安を胸に、また進級児は少しお兄さん、お姉さんになった気持ちで登園していることでしょう。

キリスト教保育連盟は、今年度の年主題を「あふれる愛 小さきものとともに」と定めました。子どもたちは、親の豊かな愛情を受けて育てられこそ、心と身体を成長させていくのですが、残念ながらすべての子どもたちがこの恵まれた環境にいるわけではありません。わが子を愛せない親、子どもが泣き止まずどう育てて良いのか分からぬ親、その結果子どもを虐待し、果てには命を奪ってしまう親もあります。また、子どもの将来の為にと出来るだけ早く様々な知識や技術を習得させようと、子どもの毎日のスケジュールを決めて、従わせる親もいます。しかし、わが子のためを思うこの親の愛情も、本当に子どもの成長のためになっているのかというと決してそうではありません。

子育てとは、子ども自身が自律できるようになることを支える行為とも言えるわけですが、あまりにも過保護・過干渉な親であったり、指示をして従わせるだけの保育を進めていく教諭であったりするのであれば、子どもは自ら考え、判断し、行動できる人間としては成長できないでしょう。

わが子に対する本当の愛情とは、どの様なものなのかを見出していく作業も親にとっては大切な使命です。また幼稚園にとっても、子どもたちの本当の成長を目指して、その人的環境を中心としたすべての環境を整えていく使命があることを忘れてはなりません。最後に、YMCAの先輩が訳し、YMCAで長く伝え続けられている詩をご紹介します。

「アメリカインディアンの教え」

子どもたちはこうして生き方を学びます。

批判ばかり受けて育った子は、非難ばかりします。

敵意にみちた中で育った子は、だれとでも戦います。

ひやかしを受けて育った子は、はにかみ屋になります。

ねたみを受けて育った子は、いつも悪いことをしているような気持ちになります。

心が寛大な人の中で育った子は、がまん強くなります。

はげましを受けて育った子は、自信を持ちます。

ほめられる中で育った子は、いつも感謝することを知ります。

公明正大な中で育った子は、正義心を持ちます。

思いやりのある中で育った子は、信仰心を持ちます。

人に認めてもらえる中で育った子は、自分を大事にします。

仲間の愛の中で育った子は、世界に愛をみつけます。

年主題 「あふれる愛 小さきものとともに」

<年主題聖句> 「愛する者たち、互いに愛しあいましょう」

(ヨハネの手紙 4章7節)

4月主題 「であろう」

聖句 “信じない者ではなく、信じる者になりなさい。”

(ヨハネによる福音書 20章27節)